

## 都市にある社会科学の楽園

清華大学学生代表

見学日時：2019年5月31日（金） 13:45-19:15

見学場所：一橋大学

### 見学概要

一橋大学は東京都にある国立大学である。その前身は1875年に創設された「商法講習所」で社会科学を専門とする総合大学であり、「Captains of Industry」を理念としている。また日本の産業界をリードする人物を多数輩出している。



メインキャンパスがある東京都国立市は「文教都市」に指定されており、環境は静かで美しく、研究や学習に適した場所である。一橋大学の学部には商学部、経済学部、法学部、社会学部、そして大学院には経営管理研究科、経済学研究科、法学研究科、社会学研究科、言語社会研究科、国際・公共政策大学院がある。学生総数は約6400人で、中国人留学生は約450人在籍している。

一橋大学において私たちはロマネスク様式の講堂、図書館、学生食堂、書店やグラウンドを見学した。

講堂はロマネスク様式の建築物で、門の前には立柱がありドーム形の天井をしていた。最も特徴的だったのは、建築士自らが作った二十数種類の怪物であり、それらはこの講堂のあちこちに彫られていた。柱を持ち上げる力士、窓の下に隠れる恥ずかしがり屋の怪物、さらに柱に彫られた十二支もあるなどそれぞれ特徴が異なり、またそのいずれも活力に満ちていて印象的であった。

暫しの見学の後、私たちは教室を訪れ大学側から一橋大学の歴史や学部についての紹介を受けた後、一橋大学の学生らと共に「大学入試制度と試験勉強」、「大学生の休日の過ごし方」そして「参加したいインターンシップ」等のテーマについて交流をした。その後私たちは懇親会に参加し、互いにお礼の品を送り合うなど深い友情を育んだ。

### なぜですか？

問：中国と日本の大学入試制度や試験勉強における共通点と相違点は？

答：共通点：

試験科目はいずれも似ていて文系と理系に分かれ、主に数学、英語、理科・化学・生物、歴史・地理・政治等の科目の内容である。高校の形式も似ていていずれも三年制で公立高校と私立高校に分かれ、公立高校は管理が比較的緩く、私立高校では試験対策が比較的充実している。試験勉強についても似ていて、両国の高校生は往々にして課外の補習クラス（日本では学習塾もしくは予備校と呼んでいる）で勉強をしている。

相違点：

試験の時期については、中国は6月7日と8日、日本は毎年1月から3月にかけて行う。答案用紙については、中国は地域毎に異なる答案用紙を使うが、日本で実施している大学入試センター試験では全国共通とな

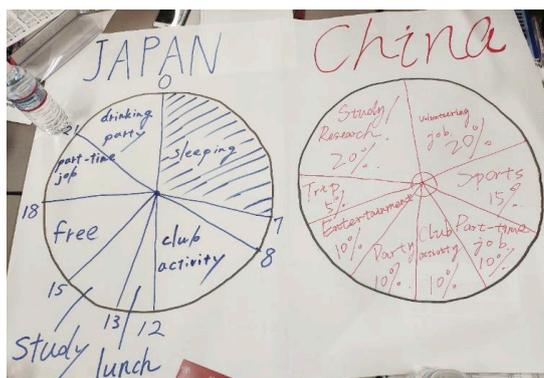
っている。願書の提出については、中国の学生は点数が発表されてから願書を提出し、複数の公立大学へ願書を提出することができる。一方日本の学生は、大学入試センター試験を利用している大学に願書を提出する場合、点数が発表される前に願書を提出し、限られた数しか提出することができない。合否判定の形式については、中国の大学は全国统一試験の点数及び特定の加点により判定を行い、日本の大学入試センター試験を利用している大学の場合は大学入試センター試験の点数及び大学毎の二次試験の点数で判定を行っているところが多い。

問：中国と日本の大学生の週末の過ごし方の違いは？

答：中国の大学生の自由時間は比較的少なく、日本の大学生の自由時間は比較的多い。

中国の大学生については、週末の多くの時間は勉強や研究を行っており、残った時間にサークル活動もしくはボランティア活動、さらにはアルバイトやインターンシップなどに参加しているため、中国の学生は週末でもとても忙しい状態である。これらの活動は自由意志での参加とはいえ、その自由意志はサークル / ボランティア組織に加入する時だけであり、加入後は組織に従わなければならないため、往々にして大きな負担となっている。

日本の学生は特定の時間帯に勉強をすることが多く、さらにサークル活動により多くの時間をかけている。一橋大学のサークルの多くはスポーツ・文化系であり、こうした活動を通じて学生らは身も心も十分にリラックスすることができる。それに対して中国において皆が言う「サークル」は往々にして一部の学生の業務組織であり、沢山の事務的な作業をしなければならず、リラックスすることはできない。



## 感想

一橋大学は非常に優れたキャンパス環境を有しており、こうしたリラックスした雰囲気や環境は間違いなく学生がインスピレーションを育むことのできるものである。一橋大学の学生との交流では、彼らから理性とロマンを兼ね備えた独特な気質を感じ、彼らの考え方や認識から私たちは日本についてより深く知ることができた。